

子どもと本

本は心の栄養、絵本は心のビタミン。
本との出会いで広がる世界を知って欲しい。



波多江小学校 図書司書 中田 智佐恵さん

読書環境を整えるのは大人の役割。
多様なジャンルの本に出合わせ、充実した読書生活を
子どもたちに経験させることがたいせつです。

成長に合わせて変わる 子どもと本の関わり

子どもたちが大好きな本。成長段階に合わせ、子どもと本の関わりは変化していきます。

乳幼児のころは、親子のコミュニケーションを図る道具。不器用でも、上手に読まなくても、家族の声を聴くことにより、自分がたいせつにされていることを知り、安心感を持ちます。小学生になると、好奇心旺盛になると同時に、知ることの喜びが芽生えます。文字が読めるようになり、いろいろな物語を読むことで、現実、空想の世界が大きく広がります。中学生は、社会を知り人生を考え出す時期であり、希望や夢と出合う時期。だからこそ、周囲にはいろいろなジャンルの良い本を用意しておくことが望まれます。

人生の転機となる 本との出会い

学校司書の経験の中で、特に印象に残っている生徒がいます。それは、おとなしい中学2年(当時)の男の子。本を最後まで読むことが苦手だった彼に、授業で、ある一冊の本を薦めました。それは宮本延春著『オールリーの落ちこぼれ、教師になる』。それを初めて読破した彼は、「自分も先生になる！なれるよね！」と目を輝かせていました。目標ができた後の成長は目覚ましく、高校生になった今も、教師になることを夢見て日々頑張っています。まさに、人生の転機となる本との出会いでした。

本で豊かな人生を

情報化が進み、インターネットで簡単に情報が手に入る現代社会。しかし、本には先人の知恵と時間のフィルターをとおした真実が書かれています。ページをめくることで豊かに生きるためのヒントや答えを見つけ出して欲しいと思います。



波多江小学校の図書の時間。週に一度、好きな本を手にとって、思い思いに本と触れ合います



波多江小学校の図書の時間。週に一度、好きな本を手にとって、思い思いに本と触れ合います

移動図書館 (ぱぴるす号)



3週間に1度やってくる「ぱぴるす号」に大喜びの園児たち



子どもたちが大好きな絵本をバスいっぱい積んで、市内20か所の保育園(所)・小学校分校を巡回しています。



長糸保育所 中田実来ちゃん

バスの中は絵本がいっぱいで楽しいです。トーマスの絵本をよく借ります。



長糸保育所 高山里穂ちゃん

ポケモンの絵本や迷路の本を借りるのをいつも楽しみにしています。

—子どもたちの健やかな成長を願って— 本と触れ合うさまざまな



読み聞かせ

おはなし会

夏休み、たけのこ文庫による小学校児童クラブでの読み聞かせ。パネルシアターや大型紙芝居などで楽しいひとときを過ごしました



8月に開催された「絵本カーニバル2011」で布絵本を使った読み聞かせ。触って遊べる布絵本に、小学生たちも興味津々



かな成長を願って— 活動が行われています。



おはなしが、はじまるよ～

布絵本の制作



子どもたちが笑顔いっぱい楽しんでくれるように、丁寧な作業で絵本を作っています

布絵本制作ボランティア団体「こびとのくつや」では、月に1度、前原南公民館に集まって、子どもたちが手に取って遊ぶことができる布絵本や布道具などを手作りしています。

絵本は一つの作品が完成するまでに3か月～半年かかるそうですが、一針一針に愛情がたっぷり注がれています。

〈エプロンシアター〉
エプロンが舞台となって、楽しいおはなしが展開されます



〈布絵本〉
この絵本では、主人公のノンタンに、おにぎり・ケーキ・カレーライスなど、いろいろなごちそうを食べさせることができます



はい、ど～ぞ